

高等学校における学習評価の手引き
～「指導と評価の一体化」の推進に向けて～

理論編

令和3年5月

山口県教育委員会

はじめに

平成 30 年に告示された高等学校学習指導要領は、令和 4 年度から年次進行で実施されることとなります。今回の学習指導要領の改訂では、各教科等の目標及び内容が、育成をめざす資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）に沿って再整理されるとともに、「カリキュラム・マネジメントの充実」「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」「学習評価の充実」が明記され、「生徒にどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図る、いわゆる「指導と評価の一体化」の必要性がより一層明確なものとなりました。

「学習評価の充実」に関しては、平成 31 年 1 月に中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会において「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」がとりまとめられたことを受け、同年 3 月の「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」により、生徒の学習改善につながるものにする、教員の指導改善につながるものにする、という学習評価の基本的な考え方が改めて示されました。

県教育委員会では、このような国の動向を踏まえ、各学校が教育課程の編成等に取り組む際の方針となるよう、令和元年 10 月に「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）実施上の手引き」を作成するとともに、このたび、新学習指導要領における学習評価の円滑な実施及び「指導と評価の一体化」の推進に向けて、新たに「高等学校における学習評価の手引き～『指導と評価の一体化』の推進に向けて～（理論編）」を作成しました。

本手引きは、新学習指導要領における学習評価の基本的な考え方を示すとともに、各教科等において、内容のまとまりごとの評価規準等を作成する際の参考資料となるよう作成しました。各学校におかれましては、本手引きや国が示す参考資料等を活用して、学習評価を含むカリキュラム・マネジメントを円滑に進めていただくことで、「指導と評価の一体化」を推進するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現し、本県の教育目標である「未来を拓く たくましい『やまぐちっ子』の育成」をめざして、特色のある教育活動を展開していただきますようお願いいたします。

令和 3 年 5 月

山口県教育庁高校教育課
課長 国 清 賢 一

目次

■ 第1章 新学習指導要領における学習評価の基本的な考え方について

1 指導と評価の一体化の必要性の明確化	1
2 カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価	1
3 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善と評価	2
4 学習評価について指摘されている課題	3
5 学習評価の改善の基本的な方向性	3
6 各教科における学習評価	
(1) 観点別学習状況の評価の観点の整理	4
(2) 各教科における評価の基本構造	5
(3) 観点別学習状況の評価と評定	6
(4) 「知識・技能」の評価	7
(5) 「思考・判断・表現」の評価	7
(6) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価	8

■ 第2章 学習評価の基本的な進め方について

1 目標と観点の趣旨との対応関係について	
(1) 教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」の確認	9
(2) 科目の目標と「評価の観点及びその趣旨」の作成	10
2 内容のまとめりごとの評価規準の作成	10
3 授業（指導と評価）の実施	
(1) 「妥当性」「信頼性」のある評価	12
(2) 評価の方法	12
(3) 評価の場面	13
4 観点別学習状況の評価の総括	
(1) 単元（題材）末の観点別学習状況の総括	14
(2) 学期末の観点別学習状況の総括	14
(3) 学年末の観点別学習状況の評価	14
5 観点別学習状況の評価の評定への総括	15

学習評価に関するQ&A	17
参考資料	20

《付表》 各教科等の評価の観点及びその趣旨

第1章 新学習指導要領における学習評価の基本的な考え方について

1 指導と評価の一体化の必要性の明確化

学習評価は、学校における教育活動に関し、生徒の学習状況を評価するものであり、生徒に必要な資質・能力を効果的に育成するためには、教科等の目標及び内容と学習評価とを一体的に検討することが重要です。

平成30年に告示された高等学校学習指導要領において、学習評価の充実について新たに項目が置かれ、授業の改善と評価の改善を両輪として行っていくこと（指導と評価の一体化）の必要性が明示されました。

生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科・科目等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。
(高等学校学習指導要領 第1章 第3款 2 学習評価の充実)

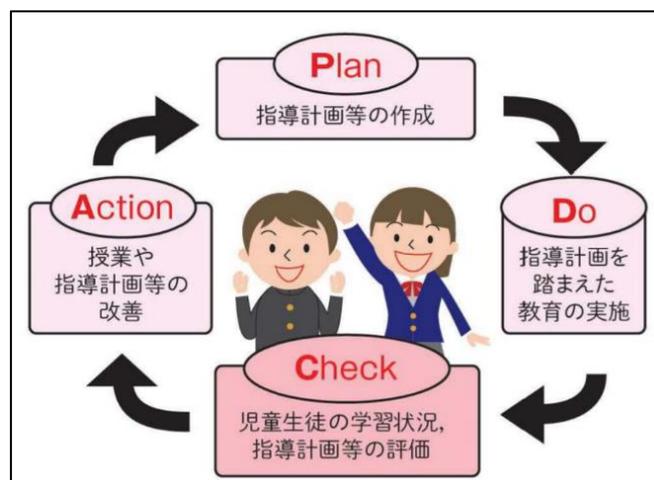


指導と評価の一体化の必要性を明確化

2 カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価

各学校における教育活動の多くは、学習指導要領等に従い生徒や地域の実態を踏まえて編成された教育課程の下、指導計画に基づく授業（学習指導）として展開されます。

各学校では、生徒の学習状況を評価し、その結果を生徒の学習や教員による指導の改善、学校全体としての教育課程の改善等に生かし、学校全体として組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていくことが必要です。



「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹であり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っています。

3 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善と評価

指導と評価の一体化を図るためには、生徒一人ひとりの学習の成立を促すための評価という視点を一層重視し、教員が自らの指導のねらいに応じて授業での生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくことが大切です。すなわち、学習評価は「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、重要な役割を担っています。

第1款の3の(1)から(3)までに示すこと（(1)知識及び技能が習得されるようにすること、(2)思考力、判断力、表現力等を育成すること、(3)学びに向かう力、人間性等を涵養すること）が偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。

特に、各教科・科目等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を発揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科・科目等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方が鍛えられていくことに留意し、生徒が各教科・科目等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

（高等学校学習指導要領 第1章 第3款 1 主体的対話的で深い学びの実現に向けた授業改善）

主体的・対話的で深い学びの視点



4 学習評価について指摘されている課題

学習評価の現状としては、教育課程の改善や授業改善の一連の過程に学習評価を適切に位置付けた学校運営の取組がなされる一方で、次のような課題があることが指摘されています。

- 学期末や学年末などの事後での評価に終始してしまうことが多く、評価の結果が生徒の具体的な学習改善につながっていない
- 現行の「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭しきれていない
- 教員によって評価の方針が異なり、学習改善につなげにくい
- 教員が評価のための「記録」に労力を割かれて、指導に注力できない
- 相当な労力をかけて記述した指導要録が、次の学年や学校段階において十分に活用されていない

先生によって観点の重みが違うんです。授業態度をととても重視する先生もいるし、テストだけで判断するという先生もいます。そうすると、どう努力していけばよいのか本当に分かりにくいんです。

※ 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ第7回における高等学校3年生の意見より



5 学習評価の改善の基本的な方向性

学習評価について指摘されている課題を踏まえて、次の三つの基本的な考え方に立って、学習評価を真に意味のあるものとすることが重要です。

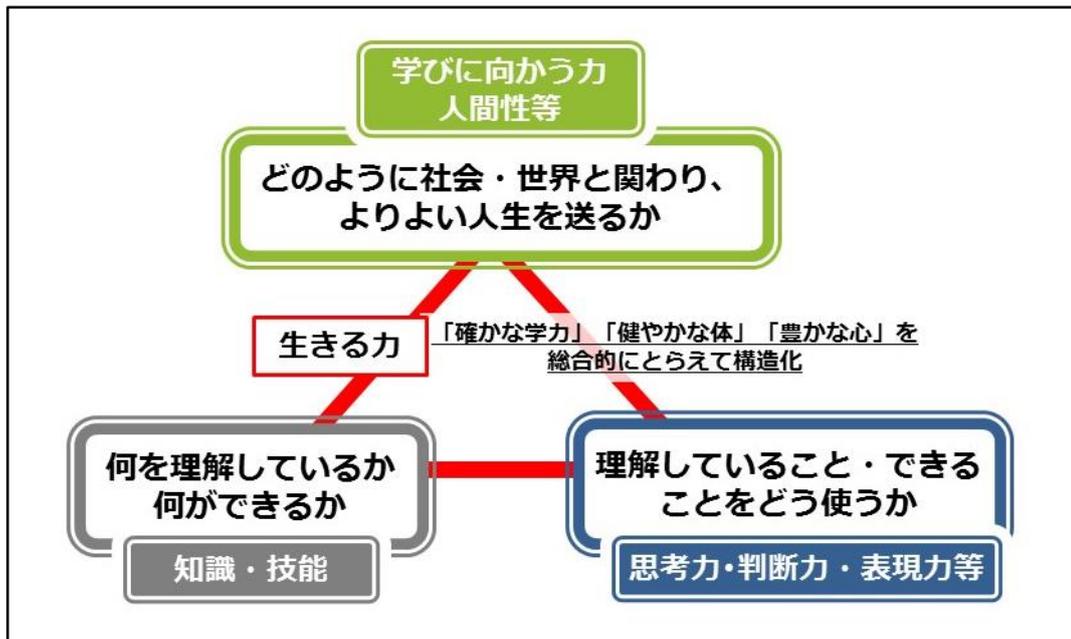
- ① 生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教員の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと



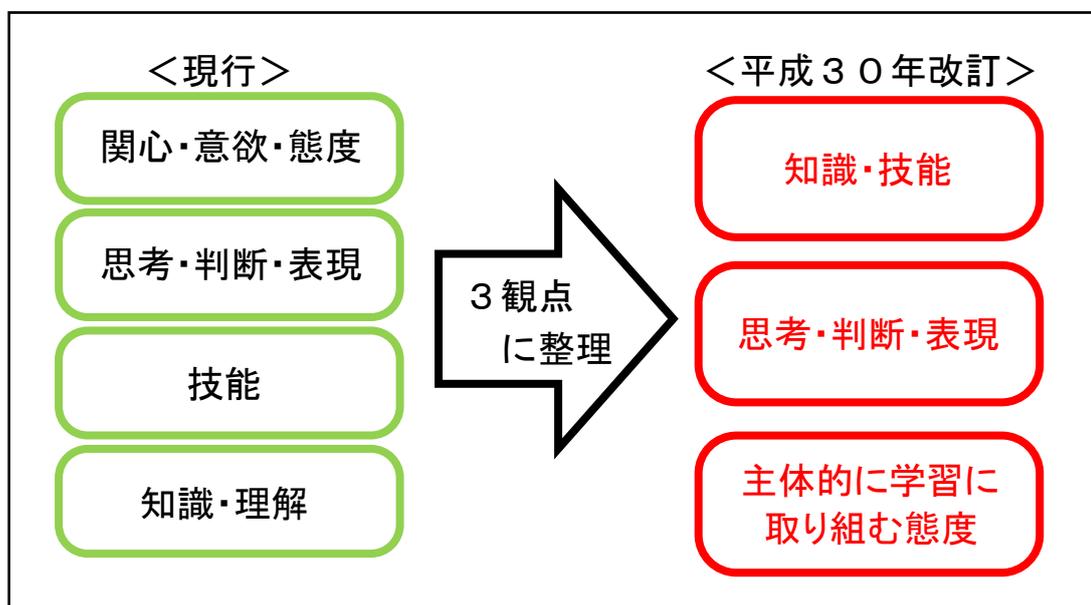
6 各教科における学習評価

(1) 観点別学習状況の評価の観点の整理

今回の学習指導要領の改訂では、知・徳・体にわたる「生きる力」を生徒に育むために「何のために学ぶのか」という各教科等を学ぶ意義を共有しながら、授業の創意工夫等ができるようにするため、全ての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成をめざす資質・能力の三つの柱で再整理されました。

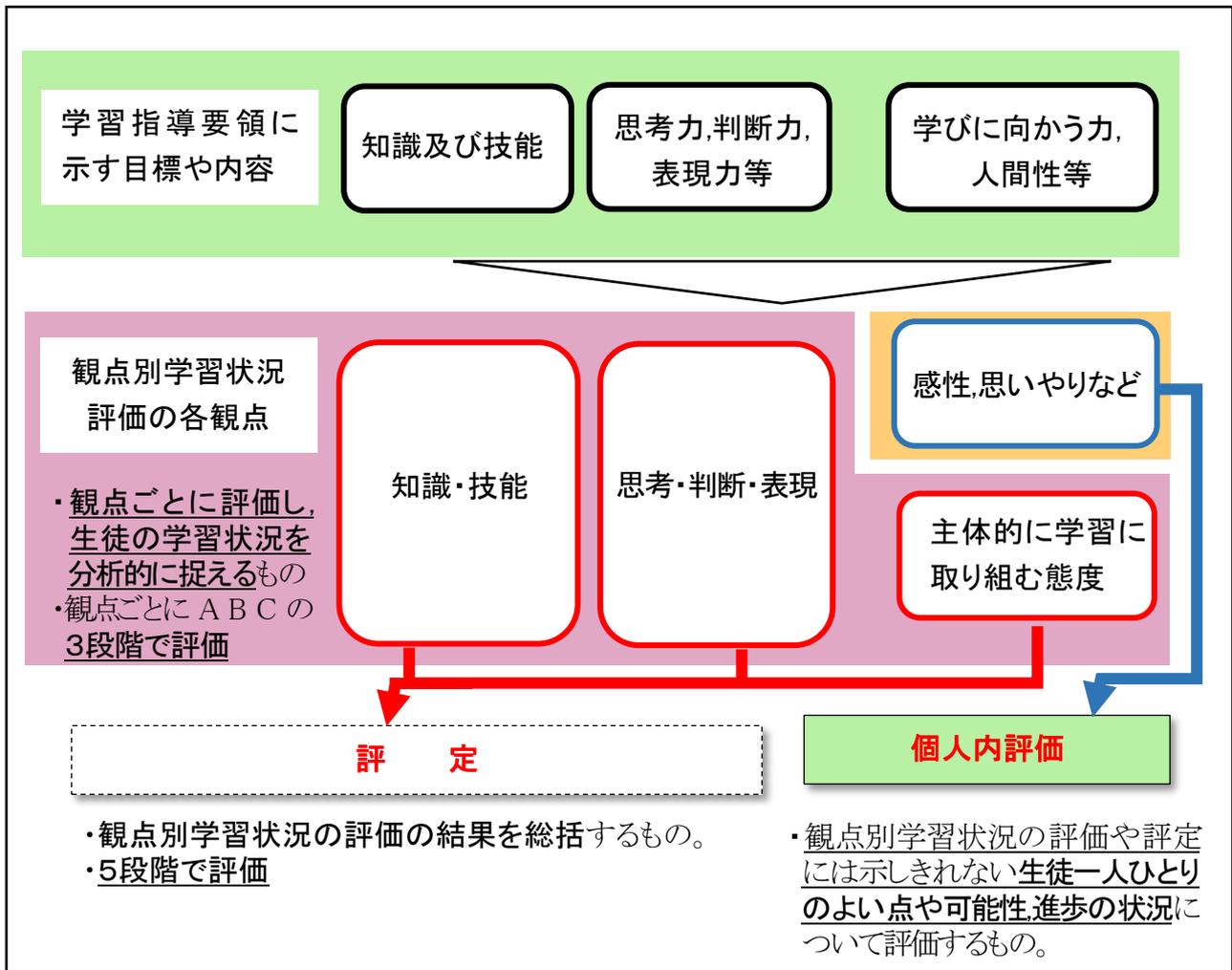


観点別学習状況の評価については、資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、現行の4観点から、「知識・技能」（職業に関する各科目は「知識・技術」）（以下「知識・技能」とする。）「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理されました。



(2) 各教科における評価の基本構造

各教科における学習評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価する「目標に準拠した評価」を実施します。



「学びに向かう力、人間性等」については、観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる「主体的に学習に取り組む態度」と、観点別学習状況の評価にはなじまない「感性、思いやりなど」があります。「感性、思いやりなど」については、生徒一人ひとりのよい点や可能性、進歩の状況等を「個人内評価」として見取ります。

言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力など教科等横断的な視点で育成をめざすこととされている資質・能力は、各教科等における「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の評価に反映することとし、各教科等の学習の文脈の中で、これらの資質・能力が横断的に育成・発揮されることが重要です。

(3) 観点別学習状況の評価と評定

今回の学習指導要領の改訂においても、従前から行われてきたとおり、学習状況を分析的に捉える「観点別学習状況の評価」と、これらを総括的に捉える「評定」の両方について、学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施することとされています。

観点別学習状況の評価

各教科の学習状況を分析的に捉える「観点別学習状況の評価」は、どの観点で望ましい学習状況が認められ、どの観点に課題が認められるかを明らかにすることにより、具体的な指導や学習の改善に生かすことを可能とするものです。

評 定

「観点別学習状況の評価」を総括的に捉える「評定」は、どの教科の学習に望ましい学習状況が認められ、どの教科の学習に課題が認められるのかを明らかにすることにより、教育課程全体を見渡した学習の状況の把握と指導や学習の改善に生かすことを可能とするものです。

また、高等学校における観点別学習状況の評価を更に充実させ、その質を高める観点から、令和4年度以降の新入生徒の指導要録に、従来の「評定」「修得単位数」に加えて、各教科・科目の「観点別学習状況」の欄が新設されました。

(指導に関する記録)									
生徒氏名	学校名	区分	学年				保存番号		
			1	2	3	4			
		ホームルーム							
		整理番号							
各教科・科目等の学習の記録									
各教科・科目等	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		備 考
教科等	観点別	修得単位数	観点別	修得単位数	観点別	修得単位数	観点別	修得単位数	
現代の国語									
英語									
歴史									
地理									
公民									
数学									
理科									
体育									
芸術									
外国語家庭									
その他									

第 1 学 年			
観 点 別	学 習 状 況	評 定	修 得 単 位 数
	AAA	5	2

(4) 「知識・技能」の評価

各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価します。

従前の「知識・理解」（各教科等において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているかを評価）、「技能」（各教科等において習得すべき技能を身に付けているかを評価）においても重視してきたものです。

○ 具体的な評価方法（例）

- ・ ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮した出題をして評価
- ・ 授業において、生徒が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど学習した知識や技能を実際に用いる場面を設けて評価

(5) 「思考・判断・表現」の評価

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価します。

従前の「思考・判断・表現」の観点においても重視してきたものです。「思考・判断・表現」を評価するためには、教員は「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、生徒が思考・判断・表現する場面を効果的に設計するなどした上で、指導・評価することが求められます。

○ 具体的な評価方法（例）

- ・ ペーパーテストにおいて、出題の仕方（選択法、完成法、記述式等）を工夫して評価
- ・ 論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れて評価
- ・ レポートや作品などを集めたポートフォリオを活用して評価

(6) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

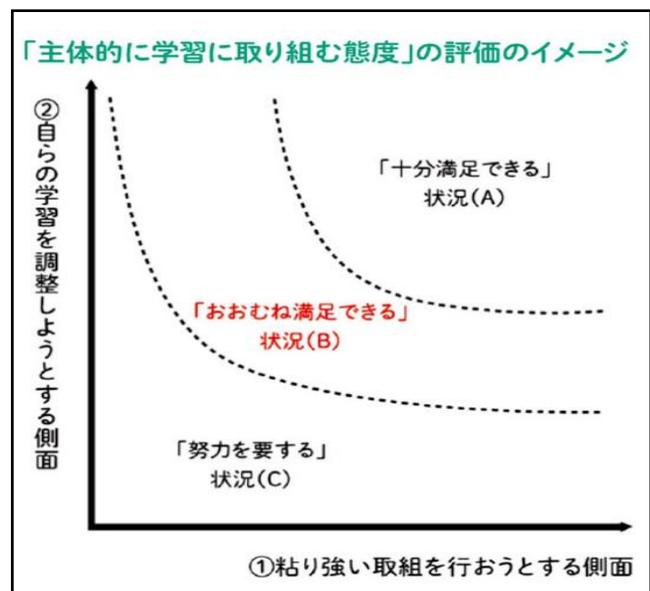
単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価することだけでなく、各教科等の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。

従前の「関心・意欲・態度」の観点も、各教科等の学習内容に関心をもつことのみならず、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価するという考えに基づいたものであり、この点を「主体的に学習に取り組む態度」として改めて強調するものです。

本観点に基づく評価は、「主体的に学習に取り組む態度」に係る各教科等の評価の観点の趣旨に照らして、

- ① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面
- ② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面

という二つの側面を評価することが求められます。



これら①、②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられることから、実際の評価の場面においては、双方の側面を一体的に見取することも想定されます。

○ 具体的な評価方法（例）

- ・ ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教員による行動観察や生徒による自己評価や相互評価等の状況を、教員が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることにより評価
- ・ 生徒が自らの理解状況を振り返ることができるような発問を工夫したり指示したりすることにより評価
- ・ 内容のまとまりの中で、話し合いなど他の生徒との協働を通じて自らの考えを相対化するような場面を設定することにより評価

「主体的に学習に取り組む態度」についての評価は、生徒の学習の調整が「適切に行われているか」を必ずしも判断するものではなく、学習の調整が知識及び技能の習得などに結びついていない場合には、教員が学習の進め方を適切に指導することが求められます。

第2章 学習評価の基本的な進め方について

1 目標と観点の趣旨との対応関係について

評価規準の作成に当たっては、各学校の実態に応じて目標に準拠した評価を行うために、まず、学習指導要領に示された各教科の目標を踏まえて「評価の観点及びその趣旨」（本手引き《付表》参照）が作成されていることを確認します。また、教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえ、科目の目標に対する「評価の観点の趣旨」を作成することが必要です。

(1) 教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」の確認

学習指導要領 各教科の「第1款 目標」 (例：国語)		
(1)	(2)	(3)
(知識及び技能に関する目標) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	(思考力、判断力、表現力等に関する目標) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。	(学びに向かう力、人間性等に関する目標) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。



「評価の観点及びその趣旨」 (例：国語)			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特性を理解し適切に使っている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

※ 他の教科の趣旨は本手引きの《付表》に記載されています。

(2) 科目の目標と「評価の観点及びその趣旨」の作成

学習指導要領 各教科の「第2款 各科目」における科目の目標		
(1)	(2)	(3)
(知識及び技能に関する目標)	(思考力、判断力、表現力等に関する目標)	(学びに向かう力、人間性等に関する目標)



「評価の観点及びその趣旨」			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	(知識・技能の観点の趣旨)	(思考・判断・表現の観点の趣旨)	(主体的に学習に取り組む態度の観点の趣旨)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 科目の目標に対する「評価の観点の趣旨」は各学校等において作成します。 </div>			

2 内容のまとめりごとの評価規準の作成

目標と「評価の観点及びその趣旨」との対応関係を踏まえて、内容のまとめりごとの評価規準を作成します。

「内容のまとめり」とは、学習指導要領に示す各教科等の「第2款 各科目」における各科目の「1 目標」及び「2 内容」の項目等をそのまとめりごとに細分化したり整理したりしたものであり、「2 内容」において、「内容のまとめり」ごとに育成をめざす資質・能力が示されています。このため、「2 内容」の記載はそのまま学習指導の目標となりうるものです。

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する基本的な手順は次のとおりです。

① 各教科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認

② 「2 内容」の記載事項の文末を「～すること」等から「～している」と変換

※ 外国語については、「2 内容」ではなく、「1 目標」となります。

「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、特に、生徒の学習への継続的な取組を通して現れる性質を有することなどから、「2 内容」に記載がありません。そのため、各科目の「1 目標」を参考にしつつ、必要に応じて、本手引き《付表》に示した評価の観点の趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する必要があります。

○ 「内容のまとめりごとの評価規準」の作成

学習指導要領 各教科の「第2款 各科目」における「2 内容」		
(1)	(2)	(3)
(知識及び技能に関する内容)	(思考力、判断力、表現力等に関する内容)	※ 内容には、学びに向かう力、人間性等について示されていないことから、該当科目の目標(3)を参考にします。



「2 内容」における記載事項の文末の「～すること」等を「～している」に変換

内容のまとめりごとの評価規準			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	(知識・技能の観点の趣旨)	(思考・判断・表現の観点の趣旨)	(主体的に学習に取り組む態度の観点の趣旨)
「内容のまとめりごとの評価規準」は各学校等において作成します。			

※ 各教科等の特性によって単元や題材など内容や時間のまとめりはさまざまであることから、評価を行う際は、それぞれの実現状況が把握できる段階について検討が必要です。

〈参考例：「内容のまとめり」（数学Ⅰ（3）二次関数）〉

(3) 二次関数 「内容のまとめり」

二次関数について、数学的活動を通して、その有用性を認識するとともに、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解すること。 **知識及び技能の内容**

(イ) 二次関数の最大値や最小値を求めること。

(ウ) 二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解すること。また、二次不等式の解と二次関数のグラフとの関係について理解し、二次関数のグラフを用いて二次不等式の解を求めること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 二次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察すること。

(イ) 二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。

思考力、判断力、表現力等の内容

3 授業（指導と評価）の実施

（1）「妥当性」「信頼性」のある評価

各学校においては、学習指導の内容や方法だけでなく、評価の結果についても生徒や保護者等に説明できるようにすることが求められます。各学校における学習評価については、評価の「妥当性」を常に確保し、「信頼性」のある評価を行うことが重要です。

評価の妥当性を確保するためには、学習指導要領に基づき、明確な学習の目標や適切な内容を設定するとともに、学習指導要領に沿った評価規準を設定することが必要です。

評価の信頼性を高めるためには、評価規準や評価方法について、事前に教員同士で検討するなどして明確にするなど、学校として組織的かつ計画的に取り組むとともに、生徒や保護者に対し、評価に関する仕組みについて事前に説明したり、評価結果についてより丁寧に説明したりするなど、評価に関する情報をより積極的に提供し生徒や保護者の理解を図ることが重要です。

（2）評価の方法

評価の方法については、各学校で各教科・科目の学習活動の特質、評価の観点や評価規準に応じて、評価規準に示されている資質・能力を評価するのにふさわしい評価の場面や評価の方法を選択することが重要です。

また、どのような方針によって評価を行うのかを事前に示し、共有しておくことは、評価の妥当性・信頼性を高めるとともに、生徒に各教科等において身に付けるべき資質・能力の具体的なイメージをもたせる観点からも不可欠であり、生徒に自らの学習の見通しをもたせ自己の学習の調整を図るきっかけとなることも期待されます。

なお、生徒に評価の結果をフィードバックする際にも、どのような方針によって評価したのかを改めて共有することが重要です。

評価規準を基に評価するには、生徒の実現状況を次のように設定します。

「十分満足できる」状況と判断されるもの：A

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：B

「努力を要する」状況と判断されるもの：C

なお、「十分満足できる」状況と判断するのは、生徒が実現している学習の状況が質的な高まりや深まりをもっていると判断される場合です。

また、評価することが目的となり、生徒への指導が不十分になることがないように留意する必要があります。

(3) 評価の場面

評価の場面については、日々の授業の中で生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことが重要であり、観点別学習状況の評価の記録に用いる評価（「記録に残す評価」）については、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、評価の場면을精選することが重要です。

評価の記録を集めることに終始して、学期末や学年末になるまで必要な指導や支援を行わないまま一方的に評価することがないように、指導と評価の一体化の推進を図り、学習の成果だけでなく、学習の過程を一層重視し、生徒が自分自身の目標や課題をもって学習を進めていくことができるように評価を行うことが大切です。特に、「努力を要する」状況（C）と評価した生徒に対しては、個別に指導を行うなどにより学習改善を図り、目標が達成できるよう支援を行う必要があります。

指導に生かす評価

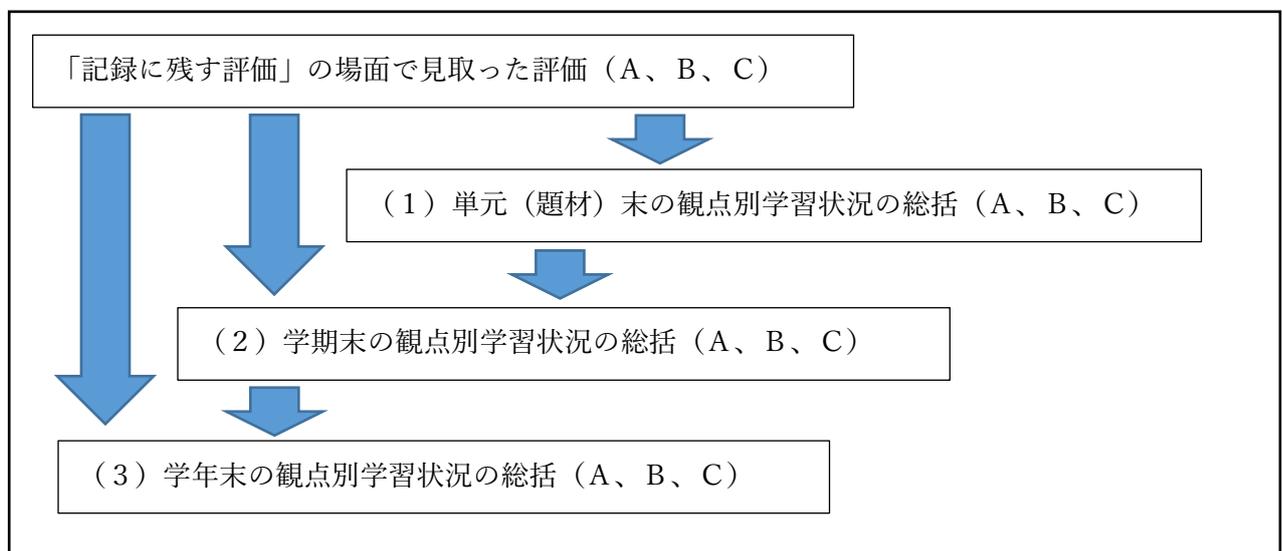
- ・ 学習指導のねらいが生徒の学習状況として実現されたかについて、評価規準に照らして観察し、その結果を指導の改善に生かす評価
- ・ 生徒全員を対象とした評価ではなく、個々の学習状況を把握して指導に生かすことに重点化

記録に残す評価

- ・ 日々の授業において「指導に生かす評価」に重点を置いた上で、評価規準に照らして、生徒全員の学習状況を記録として残して総括するための評価
- ・ 単元の中で、各観点をバランスよく見取るとともに、評価の場면을精選

4 観点別学習状況の評価の総括

学習指導要領に示す各教科・科目の目標や内容に照らして作成した単元の目標や評価規準を基に、適切に設定した「記録に残す評価」の場面で見取った評価を単元（題材）末、学期末、学年末等の節目に総括します。総括の考え方や方法は、あらかじめ学校で決めておくとともに、教員間で共通理解を図り、生徒及び保護者に十分説明し理解を得ることが大切です。



(1) 単元（題材）末の観点別学習状況の総括

＜例①＞ A、B、Cの数を基に総括

「記録に残す評価」の場面で見取った評価において、A、B、Cの数が多いものが、その観点の学習の実施状況を最もよく表現しているとする考え方に立つ総括の方法

学習活動	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	評価
知識・技能	A				B				A		A
思考・判断・表現		B			A		B			A	B [*]
主体的に学習に取り組む態度			B			C		B			B

※ 思考・判断・表現における、「BABA」の総括結果を「A」とするか「B」とするかなど、同数の場合や三つの記号が混在する場合の総括の方法をあらかじめ各学校において決めておく必要があります。

＜例②＞ A、B、Cを数値に置き換えて総括

「記録に残す評価」の場面で見取った評価（A、B、C）を、例えばA=3、B=2、C=1のように数値によって表し、合計したり平均したりする総括の方法

学習活動	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均値	評価
知識・技能	A (3)				B (2)				A (3)		2.7	A
思考・判断・表現		B (2)			A (3)		B (2)			A (3)	2.5	B [*]
主体的に学習に取り組む態度			B (2)			C (1)		B (2)			1.7	B

※ 例えば、総括の結果を「B」とする範囲を $[2.5 \geq \text{平均値} \geq 1.5]$ とすると、「BABA」の平均値は、 $2.5 [(2+3+2+3) \div 4]$ となり、総括の結果は「B」となります。「B」とする範囲は、あらかじめ各学校において決めておく必要があります。

(2) 学期末の観点別学習状況の総括

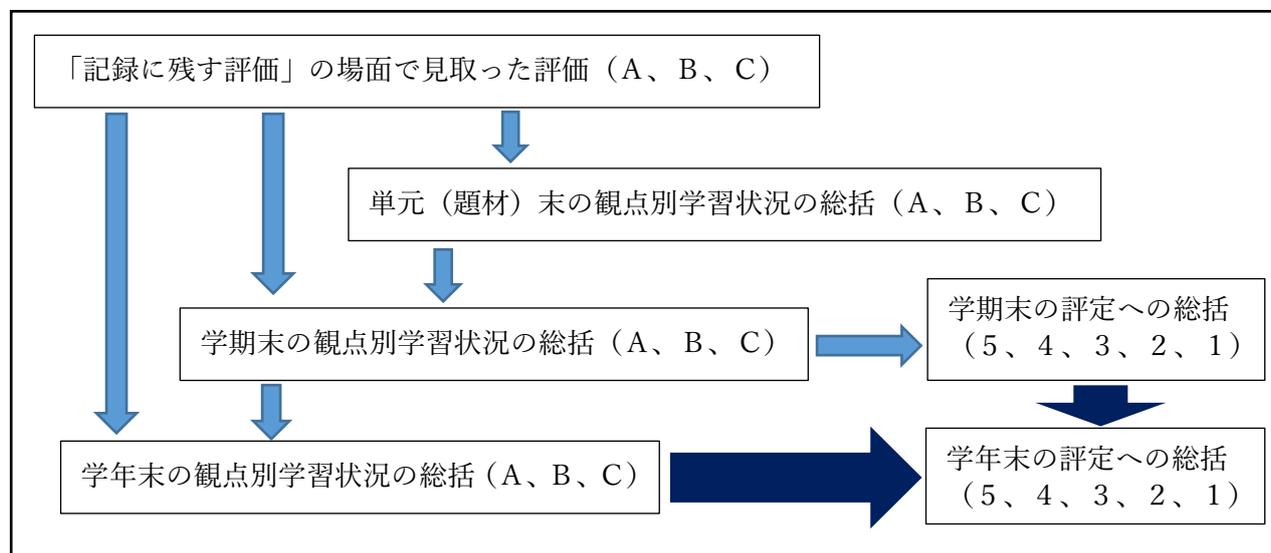
- ・ 「記録に残す評価」の場面で見取った評価を学期末にまとめて総括します。
- ・ 単元（題材）末において観点ごとに総括した評価結果を合計して、それを基に学期末に総括します。それぞれの総括の方法は、＜例①＞、＜例②＞と同様に行うことが考えられます。

(3) 学年末の観点別学習状況の評価

- ・ 「記録に残す評価」の場面で見取った評価を学年末にまとめて総括します。
- ・ 単元（題材）末又は学期末において観点ごとに総括した評価結果を合計して、それを基に学年末に総括します。それぞれの総括の方法は、＜例①＞、＜例②＞と同様に行うことが考えられます。

5 観点別学習状況の評価の評定への総括

評定への総括は、学期末や学年末などに行われる場合が多く、学年末に評定へ総括する場合には、学期末に総括した評定の結果を基にする場合と、学年末に観点ごとに総括した結果を基にする場合が考えられます。



各教科・科目の評定は、高等学校学習指導要領に示す各教科・科目の目標に基づき、学校が生徒や地域の実態に即して定めた当該教科・科目の目標や内容に照らし、その実現状況を総括的に評価して、次のように5段階の数値で示します。

「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの：5
「十分満足できる」状況と判断されるもの：4
「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：3
「努力を要する」状況と判断されるもの：2
「努力を要すると判断されるもののうち、特に程度が低い」状況と判断されるもの：1

観点別学習状況の評価の評定への総括は、各観点の評価結果をA、B、Cの組合わせ、又は、A、B、Cを数値で表したものに基づいて総括し、その結果を5段階で表します。

A、B、Cの組合わせから評定に総括する場合、「BBB」であれば「3」を基本としつつ、「AAA」であれば「5」又は「4」、「CCC」であれば「2」又は「1」とするのが適切であると考えられます。それ以外の場合は、各観点のA、B、Cの数の組合わせから適切に評定することができるようあらかじめ各学校で決めておく必要があります。

＜観点別学習状況の評価を評定に総括する場合の留意点＞

- 「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の各観点について、単元末や学期末、学年末の結果として算出された評価の結果が「CCA」や「AAC」といったばらつきのあるものとなった場合には、生徒の実態や教員の授業の在り方など、そのばらつきの原因を検討し、必要に応じて、生徒への支援を行い、生徒の学習や教員の指導の改善を図るなど速やかな対応が求められます。
- 観点別学習状況の評価結果（A、B、C）で表された学習の実現状況には幅があるため、機械的に評定を算出することは適切でない場合も予想されます。
- 評定の数値を生徒の学習状況について五つに分類したものとして捉えるのではなく、常にこの結果の背後にある生徒の具体的な学習の実現状況を思い描き、適切に捉えることが大切です。
- 各学校では観点別学習状況の評価の観点ごとの総括及び評定への総括の考え方や方法について、教員間で共通理解を図り、生徒及び保護者に十分説明し理解を得ることが大切です。

学習評価に関するQ & A

Q1 観点別学習状況の評価は毎時間行わなければならないのか。

日々の授業の中で生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことが重要です。したがって、観点別学習状況の評価の記録に用いる評価については、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとにそれぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、評価の場면을精選してください。

また、各教科等の目標や内容の特質に照らして、単元や題材ごとに全ての観点別学習状況の評価の場面を設けるのではなく、複数の単元や題材にわたって長期的な視点で評価することも考えられます。その際、評価方法について誤解がないように生徒に伝えておくことが必要です。

Q2 「十分満足できる」状況（A）はどのように判断したらよいか。

各教科において「十分満足できる」状況（A）と判断するのは、評価規準に照らして、生徒が実現している学習の状況が質的な高まりや深まりをもっていると判断される場合です。「十分満足できる」状況（A）と判断できる生徒の姿は多様に想定されますので、学年会や教科部会等で情報を共有することが重要です。

Q3 個人内評価を生徒の学習改善にどのようにつなげたらよいか。

個人内評価の対象となるものについては、生徒が学習したことの意義や価値を実感できるよう、教員が見取った評価を、日々の教育活動の中で生徒に伝えることが重要です。

特に、「学びに向かう力、人間性等」のうち「感性や思いやり」など生徒一人ひとりのよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し生徒に伝えることが重要です。

Q4 学習評価の妥当性や信頼性を高めるにはどのような工夫が考えられるか。

各学校において、学校全体として組織的かつ計画的な取組を行うことが重要です。具体的には、「評価規準や評価方法を事前に教員同士で検討し明確化することや評価に関する実践事例を蓄積し共有すること」「評価結果の検討等を通じて評価に関する教員の力量の向上を図ること」「教務主任や研究主任を中心として学年会や教科等部会等の校内組織を活用すること」などが考えられます。

Q5 「総合的な探究の時間」に記載する「観点」には、どのようなものが想定されるか。

学習指導要領に示す「総合的な探究の時間」の目標を踏まえ、各学校において具体的に定めた目標、内容に基づいて「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（平成31年3月）の「別紙5」を参考に定めることとしています。（本手引きの《付表》は「別紙5」を基に作成しています）

Q6 「特別活動の記録」に記載する「観点」にはどのようなものが想定されるか。

学習指導要領等に示す「特別活動」の目標を踏まえ、各学校において「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（平成31年3月）の「別紙5」を参考に定めることとしています。（本手引きの《付表》は「別紙5」を基に作成しています）

なお、高等学校における「特別活動の記録」については、文章記述を改め、各学校が設定した観点を記入した上で、各活動・学校行事ごとに評価の観点に照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入してください。

Q7 教科等横断的な視点で育成をめざす資質・能力はどのように評価したらよいか。

言語能力、情報活用能力や問題発見・解決能力など教科横断的な視点で育成をめざすこととされた資質・能力は、各教科等における「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の評価に反映させます。なお、各教科等の学習の文脈の中で、これらの資質・能力が横断的に育成・発揮されるよう、各学校において特色ある教育活動を展開することが重要です。

Q8 学習評価の方針を生徒に示す必要があるか。

学習評価の方針を事前に生徒と共有する場面を必要に応じて設けることは、学習評価の妥当性や信頼性を高めるとともに、生徒自身の学習に見通しをもたせる上で重要です。

Q9 外部試験や検定等の結果を評価に反映させることはできるか。

「高校生のための学びの基礎診断」の認定を受けた測定ツールなどの外部試験等の結果は、生徒の学習状況を把握するために用いることで、教員が自らの評価を補完したり、必要に応じて修正したりしていく上で重要です。外部試験等の結果の利用に際しては、それらが学習指導要領に示す目標に準拠したものでない場合や、学習指導要領に示す各教科の内容を網羅的に扱うものでない場合があることから、これらの結果は教員が行う学習評価の補完材料であることに十分留意する必要があります。

Q10 観点別学習状況の評価は通知表にも記載するのか。

評価の信頼性を高める観点から、生徒や保護者に対し、評価に関する仕組みについて事前に説明したり、評価結果についてより丁寧に説明したりするなど、評価に関する情報をより積極的に提供することで、生徒や保護者の理解を図ることが重要です。

こうしたことから、観点別学習状況の評価を通知表にも記載し、生徒の学習改善を促すことが適当だと考えられます。

Q11 障害のある生徒の学習評価について、どのようなことに配慮すべきか。

学習評価に関する基本的な考え方は、障害のある生徒の学習評価についても変わりません。このため、障害のある生徒については、特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ、個々の生徒の障害の状態に応じた指導内容や指導方法の工夫を行い、その評価を適切に行うことが必要です。

参考資料

本手引きの作成に当たっては、次の資料等を参考にしました。

<文部科学省等発出文書（①～③）>

- ① 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」中央教育審議会（平成28年12月）



- ② 「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会（平成31年1月）



- ③ 「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」文部科学省初等中等教育局長（平成31年3年）



<文部科学省等作成資料（④～⑦）>

- ④ 高等学校学習指導要領（平成30年告示）（平成30年3月）



- ⑤ 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（平成30年7月）



- ⑥ 「学習評価の在り方ハンドブック」高等学校編（令和元年6月）



- ⑦ 平成29・30年改訂の学習指導要領下における学習評価に関するQ&A（令和元年11月）



- ⑧ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（令和2年3月）



<本県作成資料（⑨）>

- ⑨ 高等学校学習指導要領（平成30年告示）実施上の手引き（令和元年10月）



《付表》

各教科の評価の観点及びその趣旨

1 各学科に共通する各教科・科目の学習の記録

教科	観 点	趣 旨
国 語	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
	思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。
地 理 歴 史	知識・技能	現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
	思考・判断・表現	地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	地理や歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。
公 民	知識・技能	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
	思考・判断・表現	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。
	主体的に学習に取り組む態度	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

教科	観 点	趣 旨
数 学	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・ 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。
理 科	知識・技能	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
保 健 体 育	知識・技能	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。
	主体的に学習に取り組む態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

教科		観 点	趣 旨
芸 術	音 楽	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・ 創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。
		思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。
		主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
	美 術	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・ 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。
		思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
		主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
	工 芸	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・ 創造的な工芸の制作をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて制作方法を創意工夫し、表している。
		思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考えるとともに、思いや願いなどから発想や構想を練ったり、工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
		主体的に学習に取り組む態度	工芸や工芸の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

教科		観 点	趣 旨
芸術	書道	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 書表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。
		思考・判断・表現	書によさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書之美を味わい深く捉えたりしている。
		主体的に学習に取り組む態度	書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
外国語		知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
		思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。
		主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
家庭		知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付けている。
		思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
		主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

教科	観 点	趣 旨
情 報	知識・技能	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。
	思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。
	主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
理 数	知識・技能	対象とする事象について探究するために必要な知識及び技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	多角的、複合的に事象を捉え、数学や理科などに関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を身に付けている。
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な事象や課題に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとしている。 ・ 探究の過程を振り返って評価・改善しようとしている。

2 主として専門学科において開設される各教科・科目の学習の記録

教科	観 点	趣 旨
農 業	知識・技術	農業の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
	思考・判断・表現	農業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
工 業	知識・技術	工業の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
	思考・判断・表現	工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
商 業	知識・技術	商業の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
	思考・判断・表現	ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
水 産	知識・技能	水産や海洋の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
	思考・判断・表現	水産や海洋に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

教科	観 点	趣 旨
家 庭	知識・技術	生活産業の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
	思考・判断・表現	生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
看 護	知識・技術	看護について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
	思考・判断・表現	看護に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
情 報	知識・技術	情報の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
	思考・判断・表現	情報産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、情報産業の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
福 祉	知識・技術	福祉の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
	思考・判断・表現	福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

教科	観 点	趣 旨
理 数	知識・技能	数学及び理科における基本的な概念、原理・法則などについて系統的に理解しているとともに、探究するために必要な知識や技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	多角的、複合的に事象を捉え、数学的、科学的に考察し表現する力などを身に付けている。
	主体的に学習に取り組む態度	数学や理科などに関する事象や課題に向き合い、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとしている。
体 育	知識・技能	運動の主体的、合理的、計画的な実践に関する具体的な事項やスポーツの推進及び発展に寄与するための事項について理解しているとともに、生涯を通じたスポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	スポーツの多様な実践と推進及び発展についての自他や社会の課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。
	主体的に学習に取り組む態度	生涯を通してスポーツと多様に関わるとともにスポーツの推進及び発展に寄与することができるよう、運動の主体的、合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。
音 楽	知識・技能	音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めているとともに、表現意図を音楽で表すために必要な技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、音楽の表現内容を解釈したり音楽の文化的価値などについて考えたりしているとともに、表現意図を明確にもったり、音楽や演奏の価値を見いだして鑑賞したりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	主体的に音楽に関する専門的な学習に取り組もうとしている。
美 術	知識・技能	美術に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めているとともに、独創的・創造的に表している。
	思考・判断・表現	美術に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、創造的に思考、判断し、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	主体的に美術に関する専門的な学習に取り組もうとしている。

教科	観 点	趣 旨
英 語	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・ 英語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。</p>
	主体的に学習に取り組む態度	<p>英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>

3 総合的な探究の時間の記録

	観 点	趣 旨
総合的な探究の時間	知識・技能	探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。
	思考・判断・表現	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。

4 特別活動の記録

	観 点	趣 旨
特別活動	知識・技能	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自己実現に必要な情報及び方法を理解している。 よりよい生活や社会を構築するための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法を話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。
	主体的に学習に取り組む態度	生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に人間としての在り方生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとしている。